

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

大会での膝蓋骨脱臼と医療の大切さ

加須市立騎西中学校

三年 小澤 雄太

僕は中学三年生で、バドミントン部の活動に一生懸命取り組んでいます。中学校最後の大会は、僕にとって特別なものでした。部活の間と一緒に練習を重ねてきた成果を発揮し、良い成績を残したいと強く思っていました。大会当日、緊張しながらも楽しみでいっぱい気持ちでコートに立ちました。試合は白熱し、一球一球に集中しました。ところが、ある場面で急に左膝に激しい痛みを感じました。踏み込んだ瞬間、膝のお皿が外れたような感覚がして、その場に倒れてしまいました。痛みは想像以上で、すぐに動けなくなり、応急処置を受けて整形外科のある病院で診てもらったと、「膝蓋骨脱臼」と診断されました。膝のお皿がずれてしまい、正常な位置に戻す治療が必要だと知りました。痛みがひどく、手術の可能性もあると聞いて不安でいっぱいでした。しかし、幸い手術はせずに、装具をつけてリハビリをしながら治療を進めることになりました。リハビリは今現在も続けています。最初は膝を曲げることもできず、歩くのも苦労しました。スポーツができない日々はともつらく、何度も挫折そうになりましたが、家族や先生、友達が励ましてくれたおかげで、少しずつ前向きになれました。

そんな中僕が気になったのが、治療費のことでした。母は「医療費は保険や税金があるから助かる」と言っていました。僕は、税金が医療の支えになっていることを初めて真剣に考えました。調べてみると、日本の健康保険制度はみんなが少しずつ負担し合い、病気や怪我の時に必要な治療を受けられるようにしているとわかりました。税金は医療機関の運営や医療機器の購入などにも使われているそうです。

この経験を通して、税金が自分たちの健康を守るために大切に使われている事に気づきました。普段はあまり意識しませんでした。医療のおかげで痛みを和らげてもらい、早く回復に向かう事ができたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

将来は、大人になって税金を納める立場になります。今度は僕が社会の一員として、みんなが安心して暮らせる社会を支えたいと思います。今回の怪我はとても辛い経験でしたが、それ以上に、医療や社会の仕組みの大切さを学ぶ貴重な機会になりました。

僕はこれからも体を大切にしながら、スポーツを楽しみたいと思います。そして、支えてくれたすべての人や医療に感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいです。